

## 平成 21 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	生産技術体系を活用した経営分析・試算シート		
[要約]岩手県生産技術体系 2005 のデータを活用することで、栽培面積や単収、販売単価等のデータを入力するだけで、目標所得を確保するための単収水準、雇用の導入条件（目標単収、労働生産性等）等の経営分析・経営試算が可能なシートを作成した。					
キーワード	生産技術体系	経営分析	損益分岐点	企画管理部 農業経営研究室	

### 1 背景とねらい

農産物価格の低迷や肥料高騰など、農業経営を取り巻く環境は厳しさを増してきており、経営分析に基づく単収や労働生産性等の経営目標が必要である。

しかし、家族経営体では、経営分析に必要な生産原価や労働時間等の詳細なデータが必ずしも整理されていないため、具体的な経営分析が困難である。

そこで、岩手県生産技術体系 2005 のデータを活用することで、比較的入手可能なデータを加えるだけで経営分析・試算が可能なツールを開発する。

### 2 成果の内容

- (1) 岩手県生産技術体系 2005 に登録されているデータ（Excel ファイル）から、分析したい品目の技術体系データを選択することにより、費目別経費や労働時間等の分析に必要なデータが自動的に読み込まれる（図 2）。
- (2) ユーザが栽培面積、販売数量、販売単価、目標所得を入力する（図 3）ことにより、「目標所得が確保可能な単収」、「費用種類別損益分岐点」の分析が可能である（図 4）。
- (3) 必要に応じて雇用条件（雇用導入作業、雇用労賃単価、雇用労働時間）や作業別の労働時間削減率を入力することにより、「単収別雇用導入効果」、「作業効率化による雇用導入効果」も分析することが可能である。
- (4) 単位面積当たりの労働時間をもとに、栽培面積に比例して栽培面積当たりの労働時間を算出するように設定しているが、作業の属性を設定することにより、単収の増減による影響等も反映した労働時間の算出が可能である。
- (5) 費目別に簡易に技術体系データを変更、追加することができ（図 5）、個別の経営実態をより具体的に反映した分析を行うことが可能である。

### 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本シートの利用には、Microsoft Excel2000 以上（動作確認済み）及び技術体系データ（Excel ファイル）が利用可能な環境が必要である。 7 参考資料・文献(1)を参照
- (2) 本シートは、Microsoft Excel のマクロ機能を使用して作成しているため、マクロを有効にした状態で使用すること。
- (3) 本シートは、耕種部門の技術体系データを使用することを前提として設計しているため、飼料作物を除く畜産部門の技術体系データでは使用しないこと。
- (4) その他、本シートの使用方法については、ユーザガイドを参照すること。

### 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等                      普及指導員及び農協等関係機関・団体の指導担当者
- (2) 期待する活用効果                            経営目標（単収、労働生産性）の明確化による収益性の向上

### 5 当該事項に係る試験研究課題

(H21-04)農業技術体系データベースの整備・拡充[H21～25 / 県単]

### 6 研究担当者    松浦 貞彦

### 7 参考資料・文献

- (1) 岩手農研(2005),『生産技術体系』及び『営農計画作成支援シート』利用マニュアル
- (2) 前山ら(2006),『農業技術体系データベースの効率的な構築手法』,『農業情報研究』15 巻(1): 25-48
- (3) 岩手農研(2008),『生産技術体系を活用したきゅうり経営分析シート』

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）



図1 メイン画面

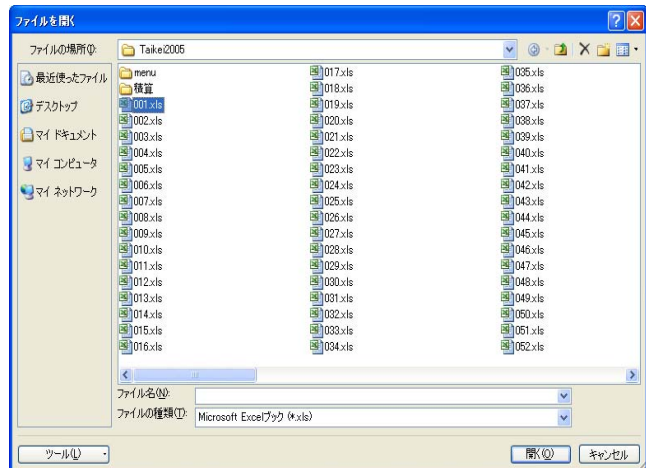


図2 技術体系データ選択画面



図3 前提条件入力画面

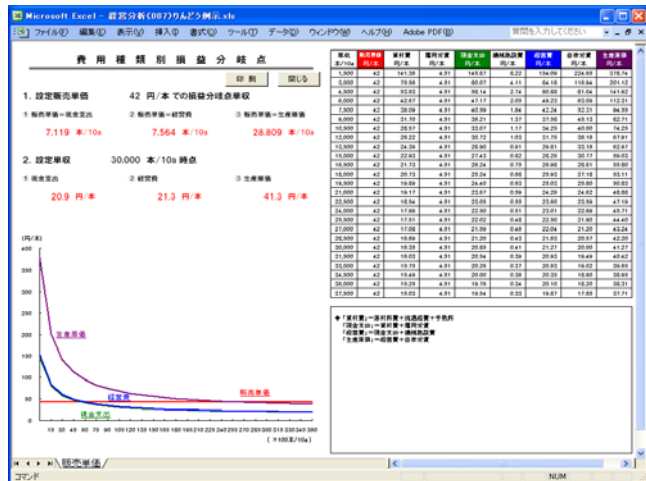


図4 分析結果画面（例：費用種類別損益分岐点）

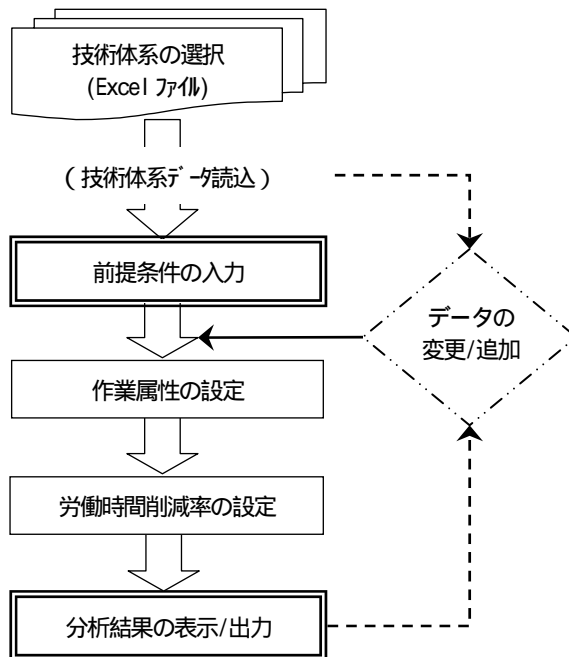


図6 経営分析・試算シートの操作フロー

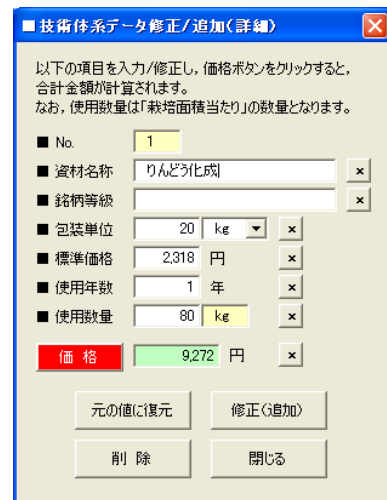


図5 技術体系データ修正画面